

# 保険・年金 フォーカス

## 新型コロナウイルスの感染拡大が 保険会社に与える影響(1) —米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 1 四半期業績発表による—

常務取締役 保険研究部 研究理事  
ヘルスケアリサーチセンター長 中村 亮一  
TEL: (03)3512-1777 E-mail: [nrvoichi@nli-research.co.jp](mailto:nrvoichi@nli-research.co.jp)

### 1—はじめに

欧州や米国においては、4月下旬から5月にかけて、2020年の第1四半期の業績発表が行われてきている。今回の業績発表は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響を受けた時期が含まれていることや、まさに現在もその真ただ中にある状況下における業績発表であることから、各保険会社が、実際の COVID-19 の影響の程度や第2四半期以降の動向をどのように見ているのかを窺い知ることができるものとなる。

今回は、こうした欧州や米国の保険会社の第1四半期の業績発表の中から、大手保険グループの COVID-19 の影響等に関する公表内容について、2回に分けて報告する。まずは、今回のレポートでは、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの状況を報告する。

### 2—米国大手保険グループの公表内容

ここでは、米国大手保険グループの中から、Prudential Financial、MetLife 及び AIG の状況について報告する。

#### 1 | Prudential Financial

Prudential Financial の 2020 年第 1 四半期の業績発表<sup>1</sup>において、COVID-19 に関して、Charles Lowrey 会長兼 CEO は、「パンデミックに関連する市場の混乱が第1四半期の財務結果に悪影響を及ぼしたが、Prudential は、その約束を果たし続けるために、堅調なリスク管理、強力なバランスシート、そして重要なリソースにより、『堅固』なままである。」と述べている。

Prudential Financial の第1四半期は、グループ全体で、前年同期の9億3,200万ドルの純利益に対して、2億7,100万ドルの純損失だった。また、調整後営業利益（Adjusted Operating Income : AOI）（税引後）は9億3,900万ドル（前年同期は、12億5,900万ドル、以下同様）、調整後営業利益

<sup>1</sup> [http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc\\_financials/quarterly\\_reports/2020/Q1/1Q20-Earnings-Press-Release\\_Final.pdf](http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc_financials/quarterly_reports/2020/Q1/1Q20-Earnings-Press-Release_Final.pdf)

(税引前)は11億9,200万ドル(16億500万ドル)、調整後EPS(Adjusted Earnings Per Share)(税引後)は2.32ドル(3.00ドル)だった。

COVID-19が第2四半期の結果に与える影響(想定)<sup>2</sup>について、第1四半期との比較で、調整後営業利益(税引前)で▲250百万ドル、調整後EPS(Adjusted Earnings Per Share)(税引後)で▲0.49ドルであると報告している。また、調整後営業利益(税引前)への影響額▲250百万ドルのビジネス区分別内訳は、以下の通りとなっている。

ビジネス区分	第1四半期AOI (税引前)	第2四半期(想定) (COVID-19 による影響額変化)
PGIM	164	0
退職	245	+70
グループ保険	44	▲105
個人年金	373	0
個人生命保険	▲20	▲80
ライフプランナー	417	▲50
ジブラルタル生命その他	334	▲50
コーポレートその他	▲342	▲35
グループ全体	1,192	▲250

さらに、第2四半期及び年間の調整後営業利益(税引前)への影響について、以下の通りとしている。なお、死亡率や罹患率への影響については、国民一般と比較して、被保険者のより若年層への分布やアンダーライティングを反映した低い死亡率及び生存保険契約による相殺効果で緩和されていると説明している。

	2020年 第2四半期	2020年 年間
ネット死亡率/罹患率	▲135	▲200
米国	▲105	▲140
米国以外	▲30	▲60
費用	▲115	▲230
米国	▲10	▲15
米国以外	▲70	▲130
コーポレートその他	▲35	▲85

また、この算出の主要な前提については、以下の通りであるとしている。

- ・ 死亡者数 米国 10万人、日本 4万人
- ・ 感染や感染死亡率等は、学術及び業界研究に基づく
- ・ 第2四半期に死亡者数はピークを迎えることを前提
- ・ 費用は、主として、販売サポート、従業員医療保障、テクノロジー、その他経費に関連している。

なお、将来の見通しに関しては、「当社の主要な取り組みに関する声明には、市場や競争の状況、又

<sup>2</sup> [http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc\\_financials/quarterly\\_reports/2020/Q1/1Q20-Earnings-Call-Presentation\\_vFinal.pdf](http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc_financials/quarterly_reports/2020/Q1/1Q20-Earnings-Call-Presentation_vFinal.pdf)

は COVID-19 のパンデミックの影響を含むその他の要因により、当社の戦略を実行できないリスクが伴う。Prudential Financial Inc.は、このドキュメントに含まれる特定の将来予測に関する記述を更新することを約束していない。」と述べている。

## 2 | MetLife

MetLife は、その 2020 年第 1 四半期の業績発表<sup>3</sup>において、COVID-19 について、「MetLife への予測される COVID-19 の影響に関する詳細は、MetLife の 2020 年第 1 四半期の補足スライドにある『第 1 四半期の補足スライド』という見出しの『第 2 四半期の展望』で入手できる。」として、この資料<sup>4</sup>の「保険引受マージン」の項目において、以下のように述べている。

- ・ COVID-19 生命保険と傷害&疾病の請求の影響は、殆どの保険種類に及んでいる。
- ・ 歯科及び自動車における請求の影響はプラス
- ・ 退職と介護における長寿の影響は相殺

なお、MetLife の第 1 四半期は、グループ全体で、前年同期の 13 億ドルの純利益に対して、44 億ドルの純利益だった。また、調整後利益 (Adjusted Earnings) は 14 億ドル (前年同期は、14 億ドル、以下同様)、一株あたりで 1.58 ドル (1.48 ドル) だった。

COVID-19 の影響について、日本の四半期報告書にあたる Form 10-K の四半期開示に関する様式版である「10-Q」<sup>5</sup>における「連結会社の見通し」においては、以下のように述べている。

「COVID-19 パンデミックに関連する動向を注意深く監視し、当社のビジネスへの影響を評価している。COVID-19 パンデミックは、世界経済と金融市場に大きな影響を与えた。政府や企業は、ウイルスの封じ込めようとして、旅行の禁止と制限、検疫、社会的距離、適所への避難、又は完全な封鎖命令、事業の制限と閉鎖など、数多くの対策を講じてきた。これらの対策は混乱し、事業活動を中断させ続け、金融市場に経済の減速と大きな変動をもたらし、世界の中央銀行はこれまでにない財政及び金融政策で対応してきている。

私たちは、リスク管理と事業継続計画を実施し、予防措置やその他の予防策を講じた。これには、従業員の出張制限やリモート作業の手配などがあり、これまでに重要なビジネスプロセス、顧客サービスレベル、主要ベンダー、財務報告システム、財務報告に対する内部統制及び開示の統制と手順を維持することを可能にした。

COVID-19 パンデミックに関連するイベントは、当社の事業運営、投資ポートフォリオ、財務結果又は財務状況に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。資本と流動性に関する会計上の見積もり、資産評価、及び様々な財務シナリオを引き続き検討する。しかし、健康、経済、社会、規制、及びその他の要因の進展に照らして、COVID-19 パンデミック及びそれに対応して取られた当社の事業運営、投資ポートフォリオ、財務結果、財務状況への潜在的な影響は依然として不確実なままである。」

また、「投資リスク」の「現在の環境」においては、以下のように述べている。

<sup>3</sup> [https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc\\_financials/2020/Q1/MET\\_1Q20\\_Earnings-Release-FINAL.pdf](https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc_financials/2020/Q1/MET_1Q20_Earnings-Release-FINAL.pdf)

<sup>4</sup> [https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc\\_financials/2020/Q1/MET\\_1Q-20-Supplemental-Slides-FINAL.pdf](https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc_financials/2020/Q1/MET_1Q-20-Supplemental-Slides-FINAL.pdf)

<sup>5</sup> <http://d18rn0p25nwr6d.cloudfront.net/CIK-0001099219/ea8a8f5c-5ac4-4c7f-8164-2c511a781b90.pdf>

「グローバルな保険会社として、私たちは変化するグローバルな金融及び経済環境、世界中の中央銀行の財政及び金融政策、ならびに政府の措置の影響を受け続けている。COVID-19 パンデミックは、世界経済と金融市場に大きな影響を与えており、世界の株式、クレジット、不動産市場に大きな変動を引き起こしている。

世界中の政府と中央銀行は、COVID-19 パンデミックに前例のない財政政策と金融政策で対応しており、これは金融市場と世界経済に重大かつ継続的な影響を与えると予想されている。これらの政策対応には、財政支援、流動性プログラム、新しい金融ファシリティ、及び金利水準のゼロ近辺、ゼロ、一部の市場でのマイナスへの引き下げを含むがこれらに限定されない財政及び金融刺激策が含まれる。時間の経過とともに、これらの政策の有効性と、それらが世界経済及び金融市場の見通しにとって何を意味するかについてさらに詳しく知ることになるが、現在のところ、当社の事業運営、投資ポートフォリオ及びデリバティブへの影響を適切に判断するために、COVID-19 パンデミックの影響の期間と重大度を確実に推定するには、要素が多すぎる。

COVID-19 パンデミックが世界経済と市場に影響を与えた結果、2020年の第1四半期には、流動性に起因する価格の混乱や信用スプレッドの拡大など、金融市場に経済の減速と大きな変動があった。その結果、2020年の第1四半期に、ポートフォリオ内の特定の投資の価値は減少したが、これらの影響の一部は、そのような市場リスクをヘッジする特定の独立したデリバティブの価値の増加によって緩和された。これらの状況はしばらく続く可能性があり、リスクを伴う投資の価格設定レベル、ならびに当社の事業運営、投資ポートフォリオ及びデリバティブに引き続き影響を与える可能性がある。」

### 3 | AIG

AIG は、その 2020 年第 1 四半期の業績発表<sup>6</sup>において、第 1 四半期における COVID-19 の影響について、以下のように述べている。

- ・損害保険は、第 1 四半期に、再保険後で 4 億 1,900 万ドルの税引前のカタストロフィ損失 (CAT) を記録した。これには、旅行、コンティンジェンシー、商業用不動産、貿易信用、労働者補償及び Validus Re に関連する推定 2 億 7,200 万ドルの COVID-19 損失が含まれる。残りの CAT は主に気候に関連したものだ。
- ・生命保険と退職は、主に進行中の COVID-19 危機によって引き起こされた株式市場の下落と信用市場のスプレッドの拡大の影響を受けて、調整後利益 (税引前) 5 億 7,400 万ドルを報告した。

また、Brian Duperreault CEO は、以下のように述べている。

「前例のない世界的な大惨事である COVID-19 に直面して、私たちの同僚は優れた回復力を示し、私たちが最善を尽くすことに集中し、特に困難な時期にクライアントのリスク管理を支援している。」

「AIG はこの危機が始まる前に強い財務状況にあり、今日も強い財務状況にある。私たちは、COVID-19 は業界でこれまでに見られた中で最大の CAT 損失になると信じているが、2017 年後半以

---

<sup>6</sup> [https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2020/aig\\_reports\\_1q\\_2020\\_results.pdf](https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2020/aig_reports_1q_2020_results.pdf)  
[https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2020/1q\\_2020\\_aig\\_financial\\_results\\_presentation\\_final.pdf](https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2020/1q_2020_aig_financial_results_presentation_final.pdf)

来私たちのチームが行った重要な一連の作業は、この進化する状況を乗り切るのに役立った。AIG は、優れた財務上の柔軟性を備えたグローバルな保険会社としての地位を確立している。」

「COVID-19 危機は重大な不確実性を生み出しており、その広範な影響を理解するには時間がかかる。これに照らして、AIG は、普通株式の調整後リターンに関するものも含む、以前に発行されたガイダンスを撤回している。ただし、損害保険では、特に調整後のコンバインドレシオの継続的な改善が見込まれており、生命保険&退職では、COVID-19 の影響によって長期的な収益プロファイルが大幅に減少するとは考えていない。」

なお、2 億 7,200 万ドルの COVID-19 損失のうち、北米が 1 億 2,300 万ドル、北米以外が 1 億 4,900 万ドルだった。また、生命保険に関して、COVID-19 に起因する死亡通知の遅延の可能性に関連した既発生未報告（IBNR）備金の積増しが行われた。

さらに、今後の COVID-19 の影響については、以下の通り述べている。

「COVID-19 は、当社の事業、財務状況及び経営成績に悪影響を与えており、さらに引き続き悪影響を与えると予想され、その最終的な影響は、危機の範囲と期間やそれに対応しての政府と規制当局が取る行動を含む、不確実で予測できない将来の進展に依存している。危機が沈静化した後でも、米国及びその他の主要経済が長期にわたる不況を経験する可能性があり、その場合、当社の事業、経営成績及び財務状況が重大かつ悪影響を受ける可能性がある。COVID-19 が当社の事業、財務状況及び経営成績に与える影響に関する記述は、将来の見通しに関する記述を構成する可能性があり、実際の影響が、COVID-19 の範囲と期間、その影響を緩和するために政府や規制当局が取った措置など、不確実で予測不可能な、多くの場合は制御不能な要因と将来の動向により、これらの将来の見通しに関する記述に反映されているものと、場合によっては大幅に異なる可能性がある。」

なお、「COVID-19 への対応」として、以下の項目を挙げている。

- ・危機が進展するにつれ、AIG は既存の事業継続計画を首尾よく実施し、グローバルな労働力の安全を確保し、重大な運用上の混乱を招くことなく社会的距離を支援している。
- ・請負人やコンサルタントを含む労働力の 90%以上が、在宅勤務に迅速に移行し、AIG は長期的なシエルターの可能性を促進する設備を提供している。
- ・AIG は、予期しないコストを支援するために、全従業員に全世界で 500 ドルの助成金を支給した。これは、総額で 3000 万ドルに相当する。
- ・AIG は、病院に数千枚のマスクを寄付したり、非営利団体に食品を配布したりするなど、グローバルコミュニティをサポートする方法を引き続き模索している。さらに、いくつかの従業員リソースグループが従業員を支援し、地域の救援活動に寄付をしている。

### 3—大手再保険グループの公表内容

ここでは、大手再保険グループから、Munich Re（ミュンヘン再保険）と Swiss Re（スイス再保険）の状況について報告する。

## 1 | Munich Re

Munich Re は、その 2020 年第 1 四半期の業績発表<sup>7</sup>において、「COVID-19 関連の損失の影響で四半期利益が低下」と述べた。

Munich Re の第 1 四半期の利益は、グループ全体で、前年同期の 6 億 3,300 万ユーロから、2 億 2,100 万ユーロに大幅に減少した。また営業利益も、前年同期の 7 億 7,100 万ユーロから 3 億 9,700 万ユーロに減少した。

COVID-19 関連の損失は、特にイベント中止保険を中心に、合計で約 800 百万ユーロに達したとしたが、また「COVID-19 による多額の損失は、Munich Re にとって財政的に管理可能である。」と述べた。

さらに、「2020 年 3 月 31 日に発表されたとおり、2020/2021 年に予定されていた自社株買いプログラムの実施は、追って通知があり、COVID-19 から生じる実際の負担と潜在的なオーガニック又はノンオーガニックなビジネスチャンスのための資本要件の両方がより明確になるまで中止された。」と述べた。

損害保険再保険事業においては、大規模損失が正味収入保険料の 21.1%に相当して、長期平均期待値の 12%を大きく上回った。人為的な大規模損失は、9 億 7,300 万ユーロで、これは主に、コロナウイルスのパンデミックによる主要イベントの中止又は延期に起因する損失によるものだとしている。

また、生命保険・医療再保険事業においては、COVID-19 による顕著な影響はないとしている。

子会社の元受保険グループである ERGO については、COVID-19 は、第 1 四半期の引受け業務に大きな影響を与えなかったとしている。

今後の見通しに関しては、以下のように述べている。

「2020 年 3 月 31 日、Munich Re は、主要イベントの中止又は延期による COVID-19 関連の損失、及び COVID-19 のマクロ経済的及び財政的影響に関する大きな不確実性により、それ以外の場合は想定に沿った人為的及び自然災害による大きな損失を仮定したとして、2020 年全体で 28 億ユーロの利益見通しを達成できない、と発表した。

進行中の不確実性を考慮して、Munich Re は現時点で 2020 年の新しい利益目標（以前は約 28 億ユーロ）を指定しない。同様に、再保険事業分野の利益ガイダンス（以前：約 23 億ユーロ）と、損害保険再保険のコンパインドレシオ（以前：約 97%）を撤回した。

Annual Report 2019 で発表された他のサブターゲットは変更されていない。しかし、コロナウイルスのパンデミックのさらなる進展とその経済的影響に関するかなりの不確実性を考えると、Munich Re は、その全ての目標値は達成されないという非常に高いリスクに直面している。」

なお、Munich Re は、4 月 6 日に「コロナウイルス：Munich Re への影響」<sup>8</sup>について公表している。この中で、例えば、以下のように述べている。

<sup>7</sup> <https://www.munichre.com/en/company/media-relations/media-information-and-corporate-news/media-information/2020/quarterly-statement-low-quarterly-profit-due-to-high-covid19-related-losses.html>

<sup>8</sup> <https://www.munichre.com/en/company/media-relations/media-information-and-corporate-news/corporate-news/2020/2020-03-19-corona.html>

「Munich Re は、2月28日の年次バランスシートメディア会議で発表されたように、年次総会で、1株あたり9.80ユーロの配当を株主に提案する。ただし、大規模イベントの中止と延期、及びCOVID-19のマクロ経済的及び財政的影響に関する大きな不確実性が主な原因で、既に発生した保険金支出を考えると、Munich Re は、今日の観点から、それ以外の場合は想定に沿った人為的及び自然災害による大きな損失を仮定したとして、2020年全体で28億ユーロの利益見通しを達成しないだろう。損害保険セグメントの多くの事業分野（事業の中断など）では、保険カバーからパンデミックの発生リスクを除外することが一般的な市場慣行となっている。しかし、COVID-19が発生し、主要なイベントの中止又は延期に関する保険金請求が発生する。さらに、景気後退の結果として、他の事業部門でも損失が発生する可能性がある。

生命保険と健康保険における損失の予想は、特に北米では、死亡率の推移に大きく依存している。200年に1回のイベントに相当する多くの死亡者がいる世界的なパンデミックは今日の見通しから除外することはできないが、そのようなシナリオでの保険金請求は、損害保険の再保険における中規模の自然災害のコストを超えないだろう。

資本市場では、金利のさらなる下落、株式市場の急激な下落、債券の信用リスク・スプレッドの拡大が観察されている。これは当社のソルベンシー比率に影響を与えるが、ヘッジ及び当社の投資の幅広い分散化は、その影響を部分的に緩和させる。現状では、Munich Re（グループ）のソルベンシー比率は、当社の内部制限及びトリガーシステムの最適範囲（175%～220%）内に問題なく留まっている。Munich Re は、全ての要件に沿って非常に堅実な資本を有したままであり、その強力なバランスシートにより、クライアントの信頼できるパートナーとなっている。

全体的な経済的な観点から見ると、結果はウイルスが如何に早く封じ込められるのかに大きく依存しているが、現時点ではウイルスの影響が拡大すると予測している。もし、今後数週間でパンデミックが抑制され、正常な経済に戻る可能性がある場合、私たちは非常に鋭いが一時的にすぎない不況を予想している。」

また、第1四半期業績発表時のプレゼンテーション資料<sup>9</sup>では、「引き続きの高い不確実性を有した動的な状況下で、保険業界の資産と負債に影響を与えている」として、以下の点を述べている。

- ・生命保険事業への財務的影響を評価するのは時期尚早
- ・コンティンジェンシー請求は既に観察されており、その他のラインにおける請求は年の残りにより関連してくる。
- ・ボラティリティが投資ポートフォリオに影響を与えるが、ソルベンシーII比率は212%以上で十分に最適範囲内に収まっている。

## 2 | Swiss Re

Swiss Re は、その2020年第1四半期の業績発表<sup>10</sup>において、「業界有数の資本水準と堅調な投資実

<sup>9</sup> [https://www.munichre.com/content/dam/munichre/mrwebsiteslaunches/2020-q1/MunichRe-Presentation-MR-Q1-2020-en.pdf/jcr\\_content/renditions/original/MunichRe-Presentation-MR-Q1-2020-en.pdf](https://www.munichre.com/content/dam/munichre/mrwebsiteslaunches/2020-q1/MunichRe-Presentation-MR-Q1-2020-en.pdf/jcr_content/renditions/original/MunichRe-Presentation-MR-Q1-2020-en.pdf)

<sup>10</sup> <https://www.swissre.com/dam/jcr:81fab050-a30c-43d5-8365-3770991b128e/nr-20200430-q1-2020-news-release-doc.jp.pdf>（日本語版）

績で COVID-19（新型コロナウイルス）の感染拡大に対応」していると述べた。

グループ全体では、COVID-19 危機が保険引受（税引前費用 4 億 7,600 万ドル）及び投資（正味 3 億ドル）の結果に及ぼす影響を反映して、2 億 2500 万ドルの純損失だった。なお、純利益への影響は▲1 億 5,800 万ドルで、ROE（年率、以下同様）は前年同期の 5.9%から▲3.1%に低下したが、COVID-19 の影響を除くと 2.2%だった。

事業部門別には、以下の通りとなっている。

#### (1)損害再保険事業（P&C Re）

- ・損害再保険事業（P&C Re）は、COVID-19 関連の損失を受けながらも 6,100 万ドルの純利益を計上した。
- ・COVID-19 の危機は、主にイベントの中止や延期により予想される保険金請求のために準備金が積み立てられたため、純利益に 2 億 5,300 万米ドルの影響を与えた。
- ・ROE は、前年同期の 0.6%に対して 3.0%で、COVID-19 の影響を除くと 13.2%だった。コンバインドレシオは 110.8%で、COVID-19 に関連する請求を除くと 105.5%となり、2020 年通年の 97%の平準化調整後<sup>11</sup>の予想コンバインドレシオの達成に向けて順調に進んでいる。

#### (2)生命・医療再保険事業

- ・生命・医療再保険事業（L&H Re）は 2 億 9,900 万米ドルの純利益で、ROE は 15.8%だった。
- ・当四半期に、COVID-19 による保険金請求（死亡率又は重大疾病のいずれについても）に重大な影響は発生していない。

#### (3)コーポレート・ソリューションズ

- ・コーポレート・ソリューションズは、COVID-19 関連の損失の影響を受け、1 億 6,700 万ドルの純損失を計上した。
- ・COVID-19 に関連する請求のための準備金が 2 億 2,300 万ドルに達したが、これらの損失の殆どは、イベント中止に関連して予想される請求のために計上された準備金である。なお、コーポレート・ソリューションズは、昨年発表された再建計画において、イベント中止保険事業から撤退することを決定している。
- ・コンバインドレシオは 125.8%で、COVID-19 の影響を除くと 103.2%となり、前年同期の 116.3%に比べて 13%ポイント低下した。2020 年通年の 105%の平準化調整後の予想コンバインドレシオの達成に向けて順調に進んでいる。

今後の見通しについて、Christian Mumenthaler CEO は、以下のように述べている。

「COVID-19（新型コロナウイルス）のパンデミックは終息の見通しが立たないため、経済と社会全体への影響は広範囲にわたると思われます。私たちの業界は、この危機による痛みの一部を吸収するという重要な役割を担っています。スイス・リーは、引き続きお客様のために途切れることなく事業を継続し、強力な資本力に基づく柔軟性を活用してまいります。当社は、積極的な貢献ができるものと確信しています。長期的には、この難局から教訓を学び、今後社会がこうした大規模な

<sup>11</sup> 新型コロナウイルスによる影響及び前年度の準備金の推移を考慮せず、平均的な大規模自然災害に伴う損失負担を想定したものの

破壊的事象にうまく対応できるようにするために、官民連携による解決策を模索することが必要になるでしょう。」

#### 4—まとめ

以上、今回のレポートでは、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの第 1 四半期の業績発表の中から、COVID-19 の影響等に関する公表内容について報告してきた。

各社の公表内容は、各社各様で、その説明資料等も様々である。

ただし、各社とも損害保険(再保険)事業や投資関係を中心に、第1四半期において COVID-19 の影響を受けて、損益の実質的な下方修正を迫られており、さらには第 2 四半期以降の動向についても高い不確実性を有しているとして、年初の収益予想の撤回等を行っている。一方で、同時に、これらの COVID-19 の影響にも関わらず、会社の財務状況の堅固さは揺るぎないものである等との声明も公表している。

次回のレポートでは、欧州大手保険グループの第 1 四半期における COVID-19 の影響等の公表内容について報告する。

以 上